

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で個性を尊重しながら、一人ひとりに合わせたケア(サービス)を提供している。		理念は事業所独自のものを掲げているが、「地域密着型」に直接該当するものではないため、今後も地域の中で生き生き生活するためにふさわしい理念(目標)を考えていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に念頭におき、入居者一人ひとりの個性を尊重し接している。「理念」を提示してあることで、いつでも振り返りや見直しなどもできている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は、いつでもどの方にも目に留まるよう分かりやすい箇所に提示し、ご家族にも説明し、ご理解をいただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々努めてはいるも、近隣となると環境的に難しい。入居者の希望は出来る限り添えるよう外出の機会は設けている。		近隣に他事業所があるため、交流が図れるよう考えていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りやイベント等に参加している。また、週に一回歌のボランティアさんや、大正琴のボランティアさんが来てくださり、入居者とも関わりが強い。(楽しみにしている)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っている。その他、必要時や不明な点等、お互いに電話連絡等で理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員が聞き役となり、不満等があったら改善出来るよう話し合っている。また、意見も出来ることから取り入れている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回担当スタッフがヶ月の状況を手紙にし、郵送している。(預り金の収支なども)必要時には電話連絡も行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱の設置、ポスターにも連絡先が記されている。(今のところ苦情の報告はみられていない)</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>一年に一回自己申告書に、日頃考えていることや提案、意見などを記載し、運営に反映させている。(常に日々をモニタリングし、考えたり、振り返っている)</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活状況に応じた勤務体制になっている。行事などで人数の確保が必要な時は、確保出来ている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が都合で異動になる場合は、併設施設から認知症の方の介護の経験をつんだ職員が異動してきている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルのファイルや、貼り出しにより整備されており、定期的に見直しも行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修を受けている。また、それを内部研修として他職員にも周知している。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括ケア会議、事業所会議、研修などでネットワークづくりが出来る取り組みが行えている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員が何か問題や悩みなどを抱えている時には、いつでも気にかけてくれ、相談に行きやすい環境を整えていく。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、勤務状況を把握しており、各種研修会など、職員の意向を聞き参加させ、各自が向上心を持つように常に働きかけている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境が変わることになるため、しっかり話を聴き、安心感を与えられるよう努めている。ご本人を理解する為にしっかり情報収集もしている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族にも安心していただけるよう、しっかりお話を聞く場を設け、不安を与えることのないよう十分配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時、今どのような状況で、どんなことを求めているか見極めながら行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後一ヶ月間は、暫定のケアプランとして施行し、生活の雰囲気に少しずつ馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を頼りにしたり、教えていただいたりなど、一人ひとりに合った対応や会話にて生活している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時などに、職員から日常の様子等をお伝えし、要望等も聞いている。また、カンファレンス時にもご家族の想いや意見等を聞いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の訪問を職員も歓迎している。一人ひとりの状況等も異なる為、その本人とご家族に適した関係づくりをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の使用や手紙など、本人に適した支援を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に入居者間との関係は把握している。口論・トラブル等、入居者の方から職員へ助け舟を求めてくることもある。皆が協力し合いながら生活が送れるよう日々努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今後も何か相談すること等があったら、相談してくださいなどと本人や家族に促している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの意向を踏まえ、また、満足していただけるよう心がけている。自己主張のない方は、職員が思いをくみ取り代弁している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事や編み物、調理などそれぞれの個性を活かしてケアを行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に把握している。生活の状況や、心身の特変など、記録としても記載し、日々の様子をみている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスなどにより、ご家族の意向やご本人の気持ちなどを代弁した上で、介護計画を作成している。職員側の気付きや、考えも常に出し合ってもらっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化等の場合には、随時見直しを行い、その人の現状に合った介護計画を作成したり、内容によっては中止したり等、早急に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の生活状況や変化等、介護記録に細かく記録している。介護計画の達成状況なども毎日記録しており、日々の介護ケアに反映されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その入居者の要望に応じて、併設施設のデイケアに参加されたり、併設病院にて定期的なリハビリを行うなど、多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音楽、手芸などのボランティアの方々や、消防署員によるアドバイス・救急法等、協力体制がとられている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向で、定期的に併設施設のデイケアへ参加している方がいる。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括ケア会議等でも話し合う場が設けられており、その他の場合であっても、包括支援センターとの関わりは多く、協力体制がとられている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望や状態を見極め、併設病院の受診や併設病院にはない科目については、ご家族の協力を得て付き添っていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医が主治医のために、月1回の定期受診にて状態や症状等を具体的に知ることが出来る。介護職員側へのアドバイスももらえる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師(療養部長)の協力は得られており、指示やアドバイス等をもたらしている。		外出行事(日帰り温泉)の際は、毎年併設施設の別々な看護師が同行することによって、どの看護師であっても馴染みの間柄となるよう努めている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者の方や、ご家族に連絡や情報交換等を図り、ご本人にとっての良い環境づくりのために考えていき、連携を図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身面の低下等、段階別にその都度ご家族・主治医に説明している。ご本人が出来る限り安心して過ごしていただけるよう多方面で支援している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に今後の予測、日々の見極めを行い、職員全体の統一事項として決めてあることもある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	多職種で十分な話し合い・情報交換がされている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いには十分な配慮をし、記録等の保管場所も徹底されている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	「行きたい場所」「やりたいこと」等、入居者が希望を表出した時、その人に合わせた声かけ、対応で支援している。	自己表現の乏しい人や、訴えの少ない人などに対して、職員が上手にその人の想いをくみ取ることが出来ている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、皆で一緒の時もあるが、一人ひとりの生活ペースを尊重している。	入浴時間の変更希望や、外へ出たい等々できる限り、ご本人の希望にそって支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により化粧品類の購入や、毛染めカット等、ご本人の意向にそって行っている。	おしゃれな方が多いため、(互いに刺激し合っていることもあるのか?)ほとんどの入居者は、化粧や髪型等をその人らしくおしゃれに心掛けている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力が発揮出来るよう、役割分担し、職員と一緒に意欲的に行っている。	食事作りの他に、週に2回入居者とおやつ作りを行っている。楽しみながら行っている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面・体調等を考慮しながら、出来る限り希望にそえるようにしている。買い物時、希望に応じて本人用のおやつやジュースなどを購入している。	行事など(新年会)にて、ご家族とご本人に飲み物を選択していただき、ビールを希望される方もいた。健康面等を考慮し、お酒はご家族の同意をもらうこととしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンは把握しており、排泄の失敗等においては、ご本人に不快な思いをさせぬよう、さりげなくフォロー・介助を行っている。		時間ごとのトイレ誘導は行わず、職員の介助を要する方も、その人のペースを尊重している。(排泄パターン、排泄時間等)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数等、出来る限り希望に合わせている。(中には毎日入浴されている方もいる)		入浴時間も十分にとっており、ゆったり入れるように支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は共同の和室にて休息する方、自室で休息する方など、一人ひとりの状況に応じ、支援できている。		夜間は時々不眠気味な方に対し、アロマオイルを使用し、少し気持ちを落ち着いていただくなど、一人ひとりに適した対応をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに適した役割(調理・掃除・洗い物など)をもっといただくことによって、張り合いのある生活が送れている。行事等も含め、外出も積極的に計画している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理はその方の能力によって、お小遣い程度を所持して買い物時に会計を行う方はいる。他は、GH内にて一人ひとりの分を管理している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ買い物や散歩など、外へ出る機会は増やしているも、日常的には(毎日)出来ないこともある。(車の配車や状況的に困難な時が生じることがある)		これからも一人ひとりの意向・希望にそえるよう考え、支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として温泉へ出掛けたり、お花見へ行ったり、普段はなかなか行くことができない場所に行っている。		これからも一人ひとりの意向、ご家族の意見等も取り入れ、外出支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を出来る態勢をとっている。事務所内以外にも、電話機(子機)を設置している。ご本人自ら訴えの少ない方は、職員の方から時々促したり、確認をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるよう配慮しており、ご本人とゆったり過ごしていただけるよう努めている。		訪問は歓迎して迎え入れており、ご家族などが来られた際は、お茶を出して自室でリラックスしていただいている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解し、施錠しなくて良い対応をとっている。ただし、やむを得ない事由により、一時的に施錠することはある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在の確認・把握はしている。夜間も定期的の巡視以外にも、非常口や窓などを確認し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なもの(消毒液・包丁など)は安全な場所へ保管しており、一人ひとりの状態に応じて、誤認されやすい物(乾燥剤・ビーズなど)を使ったらすぐに片付けるなど、配慮している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルのみだけでなく、一人ひとりに合わせた対応をとっている。		転倒については、廊下には障害となるものは置かず、出来るだけ広いスペースを確保している。窒息や誤薬も含め、一人ひとりの症状を見極め、予測していき、リスクの面も含め職員間で話し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各マニュアルを作成しており、職員会議等で見直しや話し合いをしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っており、職員会議等でも色々なパターンを想定し、話し合っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前にも起こり得るリスクはご家族に説明している。カンファレンス時や訪問時等にも、現在の状況・リスクの可能性を含めお話し、対策をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変は出来る限り早期に察知するよう努めており、必要時に受診等、対応している。他の職員にも情報を伝え、共有出来ている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の箱に、薬の内容が貼られているので、いつでも確認できる体制である。服薬内容が変わる際は、受診ノートやその他に記載している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜類(繊維質)の多く摂れる献立の工夫や水分の摂取状況の把握、体操等、無理なくすすめられるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、うがいを行っている。歯科医師からの指導も取り入れながら行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を記録し、どれ位食べているか把握している。また、併設施設の管理栄養士に定期的に献立を確認してもらっている。水分状況もチェックを行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、外から帰ったら必ず手洗い、うがいを施行している。食事前に、手指の消毒・テーブル等も消毒している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩、ふきん・まな板等を消毒しており、定期日に必ず食品のチェックを行い、記入している。(消費、鮮度、賞味期限など)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入口から玄関まで花壇や鉢植えなどで飾られ、玄関内には入居者の作品等も飾られ、親しみやすい雰囲気作りがされている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔には配慮している。季節の花を飾ったり、季節にちなんだ物を作成している。行事の写真を飾ったり、その日の献立も入居者に分かるよう毎日廊下の壁に貼っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他に和室スペースがあり、自室で過ごされたり和室等でお茶を飲みながら談笑される光景も毎日見受けられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用していたテーブル・椅子・仏壇等をお持ちいただき、その人らしい空間作りがされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に温度調節や換気等に気を配り、入居者にも寒くないか？暑くないか？などと確認し、状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段の段差部分に分かりやすいように淵に色を付けたり、足元ライト(センサーライト)をつけたり、安全に過ごしていただけるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やお風呂場にのれんをすることでわかりやすくしている。混乱は最小限に防ぎ、また見た目(環境的)にも馴染みやすい雰囲気になっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑にて野菜を作って収穫したり、お花を育てる等も、積極的に行い、それらを生きがいとする入居者の方もいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームおやまの入居者の多くの方は、精神的不安定に陥りやすい方や、気分の浮き沈みの多い方、また、周期的にそれらの症状が出現する方がいます。また、些細な人間関係で深く落ち込んでしまったりする方もいます。職員一人ひとり、コミュニケーションのほかり方や対応等、高度なものが求められておりますが、職員も皆、他の事業所で経験を積んだ方が配属されており、入居者の観察力や洞察力を養っており、臨機応変に職員が上手に対応することができます。(一人ひとりの想いをくみ取り、心身の安定がはかれるよう常に努めています)

「認知症」と一言で言っても、一人ひとりの主訴や症状は違います。一人ひとりの生活歴や性格等も踏まえ、「認知症」の理解を定期的に行う内部研修とはまた別に、実践(生活の場)にて日頃から職員側が技術知識を得ることができ、入居者の個性を尊重しています。

畑にて野菜を収穫したり、外出を好む方が多いため、出掛けたり、刺激のある生活を送っています。